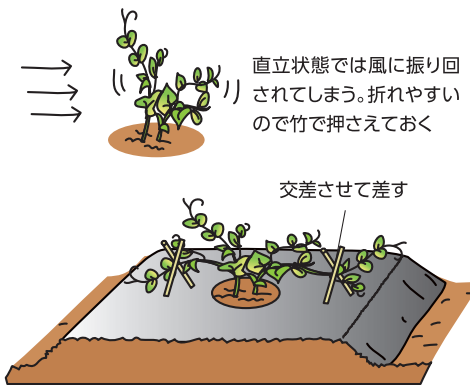


(図1)



栽培管理が楽で失敗も少ないサヤエンドウ。自分で作ると店頭では得られない新鮮さが魅力になるので、家庭菜園には、ぜひ取り入れたい野菜です。

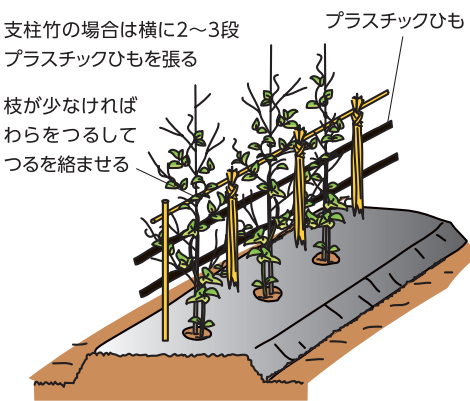
カロテン含有量が多く、分類は緑黄色野菜。ビタミンCや食物繊維も豊富。使い道はサラダや汁の実、煮物にと広く、飽きずに重宝します。

育て方のポイントを列挙すると次の通りです。



(図2)

生育盛期の姿



種まきの適期は、10月20日前後が目安です。あまりに早まきすると、大きく育つてから厳しい寒さに遭つことになるため、寒害を受けやすくなります。種袋の説明と地域の慣行をよく調べて、まきどきを決めましょう。

サヤエンドウは茎や葉が柔らかく、越冬中に風で株が振り回され、

- (1) 連作畑を避ける
- (2) まきどきを誤らない
- (3) 冬に株が風で振り回されるのを防ぐ
- (4) 伸び出したつるがよく絡み付くようしっかりとした支柱を立てる

サヤエンドウは、野菜の中でも特に連作を嫌う性質があります。4~5年はエンドウを作つたことのない畑で育てましょう。

サヤエンドウは、野菜の中でも特に連作を嫌う性質があります。4~5年はエンドウを作つたことのない畑で育てましょう。

茎が折れたり枯死したりしやすい植物です。対策として、草丈が15~20cmに伸びたら短い支柱を交差させて立て(図1)、株を固定したり、畝に沿って稲わらを半折りにし下方を土に埋め、簡易の風よけを作つたり、べた掛け資材で覆つたりして寒風から守つてやります。

越冬後、草丈が20~25cmぐらいになる頃には、巻きひげが出るので早めに支柱を立て、これに絡ませるよう、つるを誘引してやりましょう。

支柱材としては、細い枝がたくさんついたサヤや木の枝が最適ですが、入手できない場合は木くいに横竹を渡し、所々に細わらをつるす方法もあります(図2)。それらの資材もなければ果菜用の支柱材を立て、横に3段ほどプラスチックひもを渡したり、キュウリの誘引ネット(網目15cmが目安)を取り付けるなど、いろいろ工夫してみましよう。

肥料を多くやる必要はないので、前作に野菜を育てた畑なら、越冬前に畝に沿って軽く溝を作り、1株当たり化成肥料大さじ2杯ぐらいを施します。冬を超えて本支柱を立てた後に、畝の反対側に同量を施し、土を盛り上げて畝を形作る程度で足りるでしょう。

暖かくなると、どんどん生えてくる雑草が、頭を悩ませます。この「ハイバーX」は、ポリ容器入りの粒剤なので、お手軽に散布できます。

効果も強力で、広葉雑草・イネ科雑草に対して1年生・多年生を問わず除草効果を発揮します。さらに、長期間(約6か月)にわたって、雑草の発生を抑えます!

1本で約20坪(70㎡)散布できますので、ぜひ一度お試しください。

・樹木や花、作物にも影響があるため、近くで使用しないでください

・松は、特に強く影響を受けるので、ご注意ください

・空地や住宅・倉庫の周囲、駐車場、墓地などの散布に向きません

※各営農センターへお気軽にお問い合わせください

頑固な雑草にお悩みなら...
非農耕地用除草剤
ハイバーX粒 (1kg)



肥料・農薬のご紹介